

今日のトピック 日本株式市場～成長期待をつなぐ小型株市場 中長期的な視点が重要

ポイント1 回復基調にある日本株式市場 小型株の上昇率がTOPIXを上回る

- 日本の株式市場は、昨年12月25日の底値から回復しつつあります。3月26日までの上昇率を見ると、小型株（TOPIX Small*）が+16.9%と、東証株価指数（TOPIX）の同+14.3%、大型株と中型株で構成されるTOPIX500の同+14.0%を上回っています。

(*)TOPIX Small：TOPIX算出の対象銘柄からTOPIX500の構成銘柄を差し引いた銘柄で計算された指数。

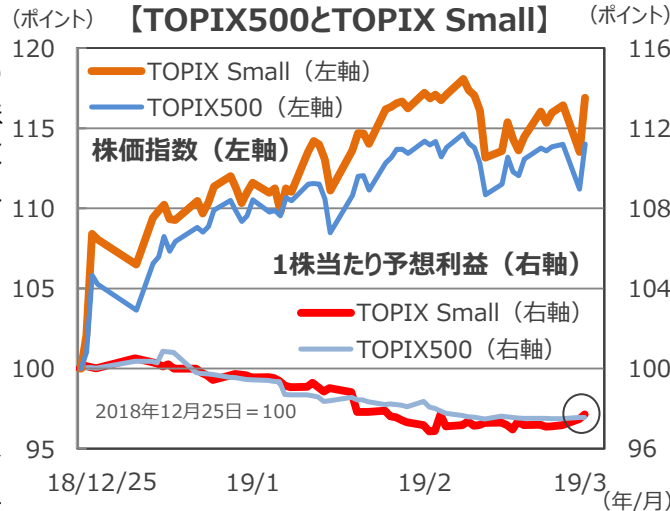
ポイント2 小型株の予想利益が上向き 内需の底堅さが背景

- 株価の回復は、米国の金融政策の変更など主に外部要因によるものでした。こうした中、小型株の1株当たり予想利益が大型・中型株よりも先に緩やかながら上昇に転じ始めた点が注目されます。これは、大型・中型株に比べて、小型株が外需のウエイトが低く、内需が底堅く推移しているためと考えられます。

今後の展開 中長期的な視点が重要に

- 指数別に業種分布を見ると、小型株はTOPIXや大型・中型株に比べて「情報技術」のウエイトが相対的に高い点の特徴です。「情報技術」は、モノのインターネット（IoT）や人工知能（AI）、フィンテック、自動運転などの技術分野が含まれています。これらの分野は日本企業が発展するための中核技術であり、中長期的に成長が期待される重要分野です。こうした分野に強みを発揮する企業が小型株にも存在します。例えば、コムチュアは、高度な技術を用いて大手企業のIT化を支援しており、また、JBCCホールディングスは大手IT企業の下請けを返上して、自ら高付加価値サービスを提供することで利益率を大きく改善させています。
- 4月下旬からの決算発表期では、18年度や19年度の業績に注目が集まると思われますが、中長期的な視点に立つことも重要と考えられます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。



(注) データは2018年12月25日～2019年3月26日。1株当たり予想利益は12カ月先予想（予想はBloomberg L.P.集計）。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【指数別にみた業種分布（時価総額ウエイト）】

名称	TOPIX	TOPIX 500	TOPIX Small
資本財・サービス	22.9	22.3	28.0
一般消費財・サービス	17.5	17.1	20.8
金融	10.8	11.3	6.2
情報技術	10.3	9.8	14.2
生活必需品	9.4	9.5	9.3
ヘルスケア	8.4	8.7	5.3
コミュニケーション・サービス	8.2	8.7	3.4
素材	6.5	6.2	9.0
不動産	3.1	3.3	1.9
公益事業	2.0	2.1	0.8
エネルギー	1.0	1.0	0.9

(注1) データは2019年3月26日時点。

(注2) 色付きは各指数内で2桁のウエイトを占める業種。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2019年3月19日 2019年度の日本企業業績見通し
2019年3月15日 日本株式市場～底堅い小型株の利益成長予想

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。